

令和4年度大島賞・CSA 選考結果報告

褒賞選考部会
委員長 横尾 隆

大島賞は、若手研究者を対象に、将来、本邦の腎臓学研究のリーダーたりうる人材を顕彰することを目的に設けられている。第29回 令和4年度の大島賞選考委員会は令和3年10月17日に行われた。今年度は6名の候補者の推薦があった。褒賞選考部会では、候補者の研究業績の質と広がり、および将来性などについて多岐にわたる熟議が行われ、以下の1名を大島賞に値するものとして理事会に推薦し、令和3年11月28日承認された。

大島賞

内村幸平氏 山梨大学

研究主題「腎臓オルガノイドのシングルセル解析と分化誘導法の改良」

内村氏は熊本大学大学院において基礎研究を開始し、まずプロスタシンが食塩感受性高血圧やインスリン抵抗性の惹起に関与していることを見出し、メタボリック症候群が糖尿病を発症する新機序であることを発表した。その後Washington University (Benjamin. D. Humphreys教授)へ研究留学し、シングルセルRNAシーケンス解析を用いたヒト多能性幹細胞由来腎臓オルガノイドの解析を行った。その業績は2018年のBest of Cell Stem Cell誌に選出されるなど、国際的に高く評価されている。さらに腎臓オルガノイド分化誘導法を改良し、集合管を含んだ腎臓オルガノイド作成に成功し、急性腎障害モデルとしても応用できることを確認している。帰国後も積極的にプロスタシンに関する研究とオルガノイドを用いた疾患モデルの応用研究を継続している。このように内村氏は与えられた研究テーマを幅広く発展させる創造性や他分野と共同研究を行う適応性、情熱を兼ね揃えた研究者であり、今後も腎臓病学の牽引に大きく貢献することが期待され、大島賞に値すると評価された。

CSA

CSA(Clinical Science Award)は、本邦の腎臓学におけるヒトを対象とした臨床研究のリーダーたりうる中堅研究者を顕彰することを目的に新たに設けられた。第6回 令和4年度のCSA選

考委員会は令和3年10月17日に行われた。今年度は2名の候補者の推薦があった。褒章選考部会では、臨床研究について、手法の如何を問わず、結果として疾病、病態の診断、予後、治療等に直接的に結びつく研究と定義した上で、この定義に沿った研究成果とその継続性に着目して多岐にわたる熟議を行い、以下の1名をCSAに値するものとして理事会に推薦し、令和3年11月28日承認された。

駒場大峰 氏 東海大学

研究主題 「慢性腎臓病における骨・ミネラル代謝の新たな病態と治療法の検索」

駒場氏は、大学院時代から基礎研究と臨床研究を両立させ、二次性副甲状腺機能亢進症におけるFGF23抵抗性の概念の提唱やカルシウム受容体作動薬の有効性などについて数多く報告してきた。さらに留学中の基礎研究の結果を帰国後にDOPPSのデータを用いて検証するなど、常にトランスレーショナルリサーチを貫き、CKD-MBD領域での多くのエビデンスを創出してきた。現在ではこの領域で国内外で認知される第一人者となり、腎臓病学へ及ぼした影響は甚大であると考えられる。このように駒場氏は基礎と臨床の架け橋としてバランス良く研究を進める才覚を有し、さらに研究推進力と情報発信力も兼ね揃えており、今後もさらなる貢献が期待されCSAに値するものと評価された。